

民間の叡知と力で 新しい文化基金の設立を

服部 正〈大阪府立大学教授〉

森本 泰好〈神戸地下街株式会社専務取締役〉

永田良一郎〈株式会社永田良介商店社長〉

中西 勝〈画家〉

石阪 春生〈画家〉

名生 昭雄〈兵庫県立鈴蘭台西高校教諭〉



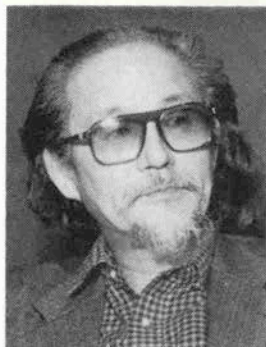
服部 正さん



森本 泰好さん



永田 良一郎さん



中西 勝さん



石阪 春生さん



名生 昭雄さん

——小誌は昭和四十五年に創刊十周年を記念して「ブルームール賞」を設定し、文学・音楽・美術・舞台芸術・ファッションの五部門にわたって活躍の目覚ましい新人を対象に顕彰してきました。昨年、小誌の活動に対して井植文化賞地域活動部門、サントリー地域文化賞を頂きましたが、これを機に市民の共有財産として文化ファンド（基金）をつくりあげたいと考えています。

民間サイドにおける文化ファンドの積極的な運用によって、市民文化を育て、より質の高いものへとレベルアップをしていくことが、二十一世紀に神戸が国際文化都市として発展していくにあたって、何より必要なことだと思います。具体的には、「財団法人ブルームール文化基金」（仮称）設立のために今後、各界の力を結集してまいります。今回は第一段階として文化基金の理念についてお話をお願いいたします。

文化は本来、民間の活力が生み出すものだ

森本 最近、政府も地方自治体も文化については積極的に取り組んでいます。過去においては考えられなかったことで良いことなのですが、行きすぎると官製文化になつてしまふ。本来、文化は民間の手にあるべきだし、何もかも行政でということになると困る。今回、「月刊神戸っ子」が提唱した民間主導型の文化基金づくりは大変望ましいことです。神戸は確かに文化現象として新しいものが多い出る出てくるが蓄積として残ってきませんね。これはやはり経済力が伴わないからで、成熟社会に入ると都市としての発言力を決定する上で文化度が大きな要素になるわけですが、それを裏打ちするには経済力が必要です。それがないために優秀な作家がどんどん外へ出てしまふ。この文化基金が一つの歯止めになると同時に、神戸の企業が利益の地域への還元として文化活動への援助をもっと積極的に行なうための刺激となればいいです。

永田 文化ファンドの蓄積という趣旨は大変結構だと思

います。従来、神戸という町は文化に対する個々の関心はあるのだが全体のまとまりが十分でなかった。これが文化不毛の地みたいなのとらえ方をされていた根拠ですね。それと京阪神の他の都市との関係をみた場合、何といても大阪の牽引力は強いから何でも取られてしまふ。歴史的なものとなると京都に敵わない。よく言えば三都市が機能分担していて、神戸に文化的なものがなくともよいという感じがあった。もちろん、神戸に文化が育たなくてよいかと言うと、そんなことはない。ただ京都、大阪に負けるなという発想でなく、京阪神を一つの都市圏として互いに補充しあうような方向でいくべきでしょうね。京都や大阪にはないもの、いかにも神戸らしい独自の文化を形成していかなくては駄目です。言うべくして難しいことですが京阪神の相関性という問題は避けて通れませんか。

中西 私は文化の大衆化ということを最近、考えているんです。たとえばグレネジビレッジの汚ない喫茶店で青年がギターを弾き語りしている。昨日覚えたばかりという程度の技量で歌も下手くそだけど、周りは人が歌うのなら聴くべきだという深い人間愛が包んでいる。日本ならば直ちに「音痴」とか野次がとぶでしょう。こういう人間の尊厳を大切にする態度を神戸にも広めたいですね。これは個々の文化レベル以前の基本的な問題点です。やはり人間そのものを大切にするという心がなくては駄目なんです。「博物館がないと神戸の恥」というふうな言い方をする人がよくいるけれど、そういう発想は本来の文化創造とはちがうと思うんですね。

今度、「芸術広場」という新聞を作りまして、そこでいくつか提案をしました。絵の場合、展覧会は大体一週間くらいで権威のある画廊で開いたとしても見に来てもらえる人数はたかが知れている。ところが展覧会には必ず未発表のものを出すべきである、というような規定が一方である。本であればベストセラーになれば何十万人の人に見てもらえるわけで、これはナンセンスだ。神戸

で出展したものを大阪にも東京にも出せるようにするべきだと提言して、これは実現しました。

もう一つは、詩人たちと共同で同人新聞的なものを夏に出したい。日頃、詩の本の装幀をしたり挿絵を書いたりして一緒に仕事をしているが、忙しくて本の中身までは読まないし詩人の側も展覧会には来ない。もっと交流が必要なんですね。

神戸は本当の意味の文化都市になるためには、やらないといけないことが一杯ありますね。どうすればもつとよい文化を生みだせるか、いろいろな人が叢知を集めて相談し合う場所と時間が必要ですね。文化賞はあるけれど、何となく今年は入選させるような良い作品がないなというのでは困る。絵もよい、音楽もすばらしい、町の中での演劇も超満員という活気を生み出したいですね。

服部 いつも言うことなんですが、文化とは本質的に非体制のものなんです。私自身いくつかの自治体が設定する文化賞的なものの審査に加わっていますが、行政のものは無色で公平なようできて案外そうでない。いろいろな制約があるんです。今日もここへ来る前に松本行雄さんの出版記念会に寄ってきたんですが、『荒神山の無縁墓地』という大変な力作です。日曜ごとに山に登って千何百という墓石の戒名をすべて洗い出したわけです。面白くて、ロマンがあって、温かみのある良い仕事なんです。行政の立場では拾いあげるのは難しいでしょうね。行政は学界での評価はどうかということをまず気にする。ちよっと在野的な人を推すと「大丈夫でしょうか」と心配する。行政を目の敵にする必要はまったくないが新しい文化基金の中では、行政のできない分野を埋めていくという姿勢が必要ですね。

名生 行政のやることに対して、まだ一般市民の側では「お上」という意識が強いでしょう。ドロドロした生活の中から生まれてくる文化というのは随分あるのに、行政の扱う場合には平均的できれいごとにされることが多いですね。ところが民間が文化を支えるということに對

して、市民の感覚は非常に弱いですね。長い徳川時代に培われたものでしょうが、日本人の歴史的体質になってしまっている。昔の兵庫には堺や博多と同様に自治制度があったんです。これはごく異例なことですが、世界に目を向けた港町として、市民の間に昔から自由、自治への憧れがあり、新しい文化を生み出してきた。為政者がこれを盗みとり政治の道具に使うようになると、ぐっと閉鎖的に押さえつけてしまう。鉄砲の伝来にしてもそうです。最後に徳川家の手で天下が統一されると堺は押さえられますね。それは余談ですが、神戸のもつ土壌はこれから先、非常に大切です。上方風ということを踏まえながら世界の文化の取り入れ口になる。民衆の中の文化活動の拠点となりうる町です。それだけに、市民の手による文化フアンドの設立ということでも先鞭をつけたいですね。

森本 先ほど作家が神戸に定着しないという話をしましたが、アメリカでも同じようなことはあるんです。ニューヨークへ出たがる人が多いんですが、その場合に地元に住むことを条件に資金援助するという方法がとられているそうです。特定の作家を援助する以外に、有力な劇団の公演を援助して多勢の人に安い入場料で提供するという方法もあります。神戸でも神戸におれば一流の音楽も聴け、展覧会もあり、演劇も見られるという形にしていくな必要があります。前に西オーストリアのバースへ行った時、たまたまロイヤルバレエ団の巡回公演に出会いました。地元の銀行がスポンサーになっていて一階の中央の席で見たのですが二十五ドルでした。今度、神戸に来ますが一万円を超える入場料でしょう。その代わりにプログラムにも堂々と広告を入れ、銀行の責任者のあいさつが劇団のリーダーと肩を並べて入っている。日本人はそのへんが潔癖というか妙に気を使いますね。筋の通ったものなら堂々と援助をしてもらえばいいと思いますよ。

石阪 その場合、広告のデザインなども全体のイメージ

を損わないように工夫してほしいですね。つまり、その公演自体の文化的意義をよく理解したうえで、うまく調和させていく。そうやって来ると、その企業の文化程度も問われてきますね。

既成の賞にはない魅力あるものを

服部 文化と一口に表現しますが、とても中身は幅広くなっていますね。どの領域でも、プロとアマの区別がなくなつて、あらゆる人がタレント性やアビリティを持つ時代ですね。大学の教授も一般から公募するのが普通のようにになりましたし、一つの分野ですと育った人がプロだとは言えなくなっている。そうなると、現在のブルームール賞はジャンルを決めているわけですが、どれにも属さないものに光をあてるという形も欲しい。たとえばフランス人のジャン・メルオー神父の「グルメぶり」に賞をあげてもよいし、極言すればこれが文化だろうかというものでもいい。途方もない遊びと危険性を含んだものであってほしい。

森本 文化活動をやる人たちの顕彰の場としては県や市の文化賞があるんですが、市の文化奨励賞を除くと大家の永年の功績に対して表彰するという形でしょう。地方の賞が中央で評価された人を追認するというのは、少々みっともない。多少冒険でも将来に期待のもてる新人の発掘を中心に展開してほしいのですが、行政の側からすると議会の承認やら何やらあって無難な評価にならざるをえない。そのあたり民間サイドの運動としては、理念の中心に置いていくと思います。

中西 エロス芸術の権威者である山本芳樹さんが、二紀会に賞を出してくれたんですが、神戸ではポルノとかエロチズムを手がける作家も少ないし、まだそういう傾向のものを一段低くみるような風潮が残っているでしょう。何か神戸はちゃんまりまとまっている感じをうけますね。

服部 たとえば「バイロス画集」や「ロックス画集」な

どエロス芸術の分野で独自の出版活動をつづけている著潮都館に賞を贈るとか、そんなアウトサイダー的な冒険も欲しいですね。何も奇をてらう必要はないけれど、今まで文化とは言われなかったものにも目を向ける必要は出てきています。

石阪 劇画なども今までにないメディアとして確立されていますね。劇画は視角志向で、絵画でも映画でも小説でもない。僕にはちよつと読めませんが、若い人の感性はとても鋭いですね。大げさにいうと人種が違ってきている。ここから芸術、ここから漫画という区別は若い人の間にはないですね。感動の種類がちがうのかな。それでいて、どこかシラケていて自己コントロールがうまい。

森本 世代間のカルチャーショックというのは確かにありますね。活字文化と映像文化とで育ったものの差とも言うのでしょうか。

名生 学校でも漫画のない教室というのは考えられませんが、日本史の教科書を読むより、白戸三平の「カムイ伝」の方がよく頭に入っていく。

中西 コンピューターを使って油絵を描くというような試みも出ている時代ですからね。そういうことを全部含めた上で、一番新しいものを時には開拓してみるということもあっていいですね。活字文化の我々と感性世代との橋わたしになるかもしれない。

森本 そこで賞の選考過程を必ず公表するといいたすね大論争をやつて、片方ではこんなものが文化かと疑問を提示する人がいてもよい。最初に基金の哲学を明快に打ち出しておくべきですね。

何よりも基礎を固めることから出発

永田 まず何といつても基金集めをどうするか。組織づくりをどう進めるかというのが当面の問題ですね。水をさすわけではないけれど、簡単にできるものなら今までにできているわけで、基礎からじっくり考えていかな

てはいけない。市民の間からの一口カンパをというアイデアも考えられますが、実際にやるとなると経費と利益とが必ずしもベシしない。企業の利益を還元してというのは口では皆さんおっしゃるけれど、なかなか実行できない。神戸の企業にまだそこまでの蓄積やゆとりがないとも言えるし、トップの方がどれだけ現段階で発想の転換ができるかにもよりますね。財界でも一般に、神戸には文化は育たぬものという先入観をもっている。これに對していや神戸でもやるべきなんだという説得力を持つことが大切です。いったん旗上げしたら途中でよろすわけにはいかない。十分に内容を煮つめた上で出発しないといけませんね。

森本 今でこそファッション産業が脚光を浴びています、神戸の産業は戦前から鉄鋼、造船といった重工業主導でしょう。現実の問題として市民生活と直接のかかわりを持たなかった。現在では第三次産業にウエートが変わりつつあり体質も変わりつつありますね。電通の出している「一九八三年の予言フラッシュ」を見ても、今後の企業は文化への認識がなくてはPR戦略が立てられないところへ来ている。ただ日本の場合に問題なのは税制上の扱いです。アメリカなどでは文化活動への資金援助は経費として認められているのに、日本では公のものへの寄付以外は課税の対象になるんです。

石阪 現代アートの分野の話ですが、ドイツである作家が地下に穴を掘っている。石油会社がスポンサーになって、掘り続けなさいというわけです。穴というのは何もない空間を買うわけで随分面白いことをするなと思うんですが、企業のテーマと通ずるところがあるんでしょうね、企業の側に神戸で活動して利益をあげたら何割かを地元還元してもらおう、その中身は文化活動へ向けてもらうようにしようというのは全くその通りなんです、どうしてよいかわからない企業もあります。一社だけの力では無理というところもある。その受け皿を市民サイドでつくってあげることが大事です。基金さえ多く集まれ

ば、従来のブルーメール賞だけでなく、もっとスケールのある活動が展開できるわけで期待するところが大きいです。

名生 企業も一般市民も、きちんとした筋道で訴えれば賛同していただけたと思います。貧者の一灯というようなものを含めて大きな運動にしていくなさそうです。奈良の大仏殿の瓦を裏返すと人の名前が出てくるでしょう。あれは昔の人の知恵ですが、協力していただいた人の記録をどこかできちんと残すことも考えなくてははいけませんね。

中西 昨年の秋にさんちか広場でチャリティー美術展をやりましたが、あの催しには作家たちも大変喜んで参加しました。具体的に基金をどうやって集めるかという話になりますと、地元企業にお願いしたり、一口一万円という規模で市民の浄財を集めたり、いろいろ方法はあるでしょうが、作家は作家の立場で協力していけると思うんです。絵だけに限らず文学、芸能、その他いろんなジャンルがありますから、草の根運動として多様な催しを進めていくといい。運動それ自身が市民の文化への関心を掘り起こすことに結びつくように、方法それ自身を文化的・美術的にやってほしいですね。一つの例ですが、いまのブルーメール賞の美術部門をみても、選考委員は批評家の方ばかりでしょう。あれは非文化的だと思いませんか。作家も一般の人も、いろんな人が集まってそれぞれが叢知を寄せ集めるということが大切なんです。前に二紀会では大衆賞というのを設けてまして、各々の絵を写真にとって会場の隅に貼っておくんです。絵を見に来られた方が気に入った写真の上に画鋲を押していく。二十代は黄色の画鋲、三十代は赤の……と色分けしておくと、年代による偏りがあったり、専門家の出す他の賞と全く別の結果が出たり、随分見方が違ってくる。専門家だけというのでは深みのある文化は形成できませんね。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区旗塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三
神戸市中央区三宮町1丁目9-1-807
センタープラザ東館8F
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市中央区三宮町1丁目10-1
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の
企画は以上5社の提供によるものです。

経済ポケット ジャーナル



★緑と太陽の西神工業団地
神戸市が西区に建設中の西神工業団地は、神戸にない先端的な企業を誘致しようとの狙い通り、現在松下電器産業、日本電気、小松フォークリフト、ミノルタカメラ、川崎重工工業など大手企業を含めて96社の進出が決定。うち国際試業、西

★米総領事館跡地

南インターナショナルに神戸市内の在日外国公館の中で最も長い歴史を持つアメリカ総領事館が、大阪へ移転。その建設を南イン



南 泰吉社長
ナニナショナル（南泰吉社長）が担当することとなった。大阪・北区の新庁舎及び苦楽園に移る領事館員宿舎を建設し、神戸の領事館及び宿舎跡地（計4,700㎡）を南インターナショナルが引取るとい

神テトラパックなど48社が既に操業中である。また富士電機製造など3社も工場建設を急いでいる。60年から61年にかけて進出企業は

うもの。跡地の用途はまだ決定しておらず現在検討中であるが、神戸にふさわしい建物を建設して、有効利用をはかりたい意向だ。このプロジェクトの総額



広大な西神工業団地。建設が進んでいる。

約150億円の見込みである。

★甲南漬の高嶋酒類食品が

「百年のあゆみ」を発行
甲南漬でおなじみの高嶋酒類食品（高嶋平介社長）は、昭和56年6月創立50周年を迎えたが、これを機に



高嶋平介社長
社史の編集を進めていた。このほど50年間の個人商店としての前史を加えた「百年のあゆみ」を刊

行。戦前の貴重な写真や資料が豊富に使われ、見て楽しい社史となっている。

□問い合わせ／高嶋酒類食品 078-841-0551

★シンエーフーズが梅田に

新趣向の仏料理店を展開
外食産業の雄、シンエーフーズ株式会社（田中教仁社長）が、新店舗「ラ・タ

★KOBEOフィスレディ

上田 多紀さん（21）

へかてつ食品V



「デザイン関係の仕事につくのが夢だったんです」と開口一番。同社の宣伝広告部門を常務以下3名でまとめている。家庭的な職場の雰囲気に囲まれてか、とても一年生社員とは思えない活躍ぶり。スキー、ヨットは2級の腕前。一見そう見えぬ所がまた凄い。桑田佳祐が理想のタイプだが30才までは何故か結婚はおあずけであるとか。残念……。尼崎市出身。

ベルン」の第一号店を大阪・曾根崎町の東海銀行ビル9階に3月1日オープンする。



パトリック・ランヌさん
フランス調理界のホープ

で、カオールのアンバサダーと称されるシェフ、パトリック・ランヌと提携。パトリックさんがカオールで開いている「ラ・タベルン」の店そのままを再現。カオールはトリフやフォアグラの産地でもあり、手頃な価格で本物のフランス料理を提供するのがねらい。客席70の他、宴会場、喫茶・パールのラウンジも広く、価格帯はコースで2,500円から6,500円、アラカルトも多い。カオールフェアなどイベントも各種予定されている。

KOBE CONVENTION SPOT

●コンベンション都市・神戸の最新情報

県下の頭脳を乗せて 汎太平洋フォーラム いよいよ船出

★汎太平洋フォーラム発足

初代理事長に新野教授が

太平洋と太平洋に係りを持つ国における自然と人間に係る問題について情報、意見を交換し、学問・文化・経済等を発展させるために寄与することを目的として兵庫県の大学が共同で研究する「汎太平洋フォーラム」が正式に発足した。1月27日国際交流協会国際会議場で、設立総会が開かれ、神戸大、神戸商船大、神戸外大、姫路工大、神戸商科大、関西



理事長に選ばれた新野幸次郎教授

学院大、甲南大の関係者のほか兵庫、神戸市、神戸商工会議所などの代表ら約80名が出席。初代理事長には、準備段階から代表世話人として、各大学の橋渡しに奔走した新野幸次郎・神戸大学経済学部教授が選ばれた。

顧問代表の斐天義久・神戸大学長は「国際都市神戸にこのような自由参加で学術研究できる場ができたことは意義深い」と述べ、山田昇一・神商議事務理事も積極的にサポートする意志を示した。

★21世紀は太平洋の時代

新野教授は「新興工業国の多くは太平洋に面しており、これらの諸国は次第に力をつけ、21世紀には世界のリーダーシップをとるであろう」と予測する。また資源開発の面においても、各国の目は海洋に向けられつつあり、太平洋は新しい時代を築くための重要な研究対象といえる。

石光享・神戸大経済学部教授が設立総会で行った記念講演の中から

らの実例を引用する方がわかりやすい。太平洋は世界最大の面積を誇り、世界の陸地合計よりも広い。その太平洋をめぐる諸国の数は39で、世界の約1/4に該当する。また人口をみるとこれら諸国で約20億となり、世界の1/3近くを占めることになる。数字的にもその重要性が裏付けされ、将来への可能性を秘めた「汎太平洋」が、熱い視線を浴びるのも理解できよう。

石光教授はさらに、「資源とは魚ではなく海であり、木ではなく森である」と、資源問題に関して基本的な考え方を提議した。

★いづれは

国際コンベンションにまで発展汎太平洋フォーラムの事務局は神戸大に置かれ、太平洋知識の普及をはかるための講演会、シンポジウムの開催及び広報誌の発行など諸々の事業を行なう予定。

また今後参加大学の輪をさらに広げ、国際港都・神戸にふさわしい研究や情報提供をしながら、国際的なシンポジウムまで昇華させたい意向である。

兵庫県下8大学から130名の学者が参加し、あらゆる分野の研究を大学の枠を越えて学際的に進めようとするこのフォーラム。全国でも例のない試みだけに、注目を浴びている。

THE ARIMA SPA
IN MAR.

湯の街

有馬歳時記

★観光客の声を反映して

さらに魅力のある有馬温泉に

有馬温泉では、昨夏、ホテル・旅館の宿泊客を対象とした「湯けむりキャンペーン」を実施した。回答は約一万二千人から寄せられたが、今月はその結果の紹介と、有馬温泉の今後の町づくりを考えてみたい。

A有馬から受けるイメージは？

ベスト5をあげると、「静かで落ちついている」「良質の温泉」「緑が美しい」「都会に近い奥座敷」「古い歴史のある温泉」の順となる。これは、これまでに有馬温泉について言われて来たイメージをほぼ追認したとの感がある。

有馬温泉観光協会青年部顧問の弓削敏行さんも「ほぼ予想通りで、われわれが売り物にしていた有馬温泉のイメージが定着して来た」と分析する。

B有馬にあればいいと思われるものは？

有馬温泉には名所旧蹟が多い。新しいところでは昨年オープンした「炭酸泉公

園」「湯けむり広場」がある。では、さらにどういふものがあればいいのか？

数字の多かった順に並べると、「レジャーランド」「遊園地・公園（子供の遊び場）」「公共の大プール」「スポーツセンター」「テニスコート」となる。面白いのは、「露天風呂」や「公共の大浴場」への要望がかなりあるということだ。

この点について弓削さんは、

「アンケートをとったのが夏休み期間中だったので、ファミリー客が相対的に多く、子供たちがゆつくりと時間の過ごせるレジャー施設への要望が強かったのは当然だと思います。また、テニスコートやスポーツ施設に関しては、昨今のスポーツブームを反映しての結果でしょう。大プールについても、夏ならではの要望ですが、各ホテルに備えつけられたプールでは、日帰りの客が十分に使うことが出来ないという不満があるのかも分りませんね。

ところが本来の温泉については、ちょっとした発見がありました。普通、温泉のイメージには露天風呂が付きものですが、ご承知のように有馬温泉にはありません。その露天風呂への要望が意外に強かった。これはわれわれが見過ごしていた点ですね。また、公共の大浴場の要望もかなりありましたが、確かに、その点有馬温泉は城崎や道後にくらべると不備で、温泉会館が一軒あるだけです。そのあたりに不満があるのでしょうか」と話す。

C年齢別、地域別では？

有馬の歴史を語り続ける「いで湯の宿」

銀水荘

別館 楽山

TEL (078) 904-0622

別館 光楽

TEL (078) 904-3656

欽山は典雅な
日本風の館です

国際観光旅館



欽山

TEL (078) 904-0701(代)

敷地内から湧きでる
日本最古の温泉「有馬温泉」

阪急ホテルチェーン

有馬ビューホテル

TEL (078) 904-2295(代)

温泉と演芸と遊技場

有馬ヘルスセンター

TEL (078) 904-2291

雅ただようくつろぎの館

中の坊瑞苑

TEL (078) 904-0781

会議セミナーから御家族づれまで

有馬グランドホテル

TEL (078) 904-0181



有馬温泉の新旧の名所。湯けむり広場（左）と炭酸泉公園（右）

今度は観点を変えて年齢別、地域別に
見てみよう。

年齢別では、14歳までが18・9%、15歳から24歳までが14・1%、25歳から34歳までが8・9%、35歳から44歳までが28・9%、45歳から59歳までが17・8%、60歳以上が11・4%という結果である。

地域別では、やはり関西が70%を占めているが（兵庫県34・7%、大阪府31・8%、京都府6・6%、奈良2・2%など）、愛知県4・4%、東京3・2%と

関東勢も多い。全体では、北は北海道から南は鹿児島まで、全国から有馬温泉を訪れている。有馬温泉の知名度がかなり侵透しているようだ。

さて、では、これらのアンケートの結果をどう今後の町づくりに生かせばいいか。弓削さんは次のように話す。

「模索中ですが、一つのイメージが固定しては困ります。とくに将来とも長くつき合うことになるという意味で、若者にターゲットを絞ったキャンペーンや施設の建設が必要です。かと言って、従来からの有馬のよさを壊すわけには行かない昔ながらの良いものと、新しいものの調和のとれた発展が大きな課題だと思います。客の嗜好の多様化にともない、どこにターゲットを絞ればいいのか、なかなか難しいですね」

今春には、行政マンや学識経験者らと交えた十カ年計画の準備委員会が発足する予定であり、また、一月中旬からアンケート第二弾もスタートした。出来れば一カ月に一回ほどの割でアンケートを実施し、宿泊客の声をどしどしと町づくりに採り入れて行く計画だそうだ。

春を迎えて有馬温泉には活気がみなぎっている。

▲アンケート項目V1、今回の御旅行は：1. A家族旅行、B新婚・旧婚旅行、Cビジネス旅行、D団体旅行、Eグループ旅行、Fその他。2. 有馬へは何でお越しになりましたか？ A観光バス、Bマイカー、C電車Dバス、Eタクシー、FロープウェイG徒歩。3. 御旅行をされるまでの有馬から受けるイメージをお聞かせ下さい。4. 有馬温泉にあればいいと思われるものをお聞かせ下さい。5. 有馬の周辺観光地であなたの一番好きな所はどこですか？ 6. 御宿泊後の有馬温泉への御意見、御感想をお聞かせください。以上。

旅は出会い
ほのぼの心を添えて

政府登録〈登録第78号〉

●月光園

神戸市北区有馬町318
TEL (078) 904-0366

自然の恵みを
湯けむりに伝える

政府登録国際観光旅館

古泉閣

TEL (078) 904-0731

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり
味に集う

Sunny Side up
かみいせん、テニスクラブ

TEL (078) 903-1024

木造りの宿

御所坊

TEL (078) 904-0551

結婚式場を完備しています



伝統と格式を誇る

兵衛

向陽閣

景勝高台の近代旅館

TEL (078) 904-0501代

本物志向に徹底した 正統派ファッション

サン・ミヨシヤへ天野武文デザイナーを訪ねて



ヨーガと瞑想が趣味の天野さん



ダンディな兼社長

珍しく正統派のファッションですね。

天野「着易く、ルーズな服が流行っていますが、私の考え方としては、基本的にベーシックで素材の品質が良いものを心がけています。シルエットの美しさを大切にしたいので一五〇〜一七〇センチまでの女性には少しの補正でも最高のバランスで着て頂ける服を創っています。

今迄はシャネルスーツとブラウスの組み合わせ等セツトでお求め頂く場合が多かったのですが、個性的な着こなしが楽しめるよう、例えばジャケットだけの単品売りも始めました」

瀧「先生の洋服は、色といい、デザインといいとても神戸的でみよしやの呉服のお客さまにも好評です」

——サン・ミヨシヤとの出会いは、どんなきっかけがあったのですか。

天野「私共は各都市に一店舗ずつぐらいい、商品を置いて頂いていますが、神戸はまだ契約がなかったんです。神戸は以前から好きな街で元町からセンター街、北野町界隈と歩いてみたときに、この店が素敵だなあとと思って飛び込んだんです。最高に理解のある社長さんですよ(笑)」

——神戸のどんなところがお好きなんですか。

天野「私は横浜生まれなので港町という共通点があるからでしょうね。一種独特な街がকাশ出す雰囲気が好きです。女性のセンスが高いのもいいところでしょう(笑)」



—今年の春・夏物はどんな特徴があるのですか。

天野「黒・紺・白が今迄の基本ですが、グリーン・紫・グレー等多色化と、いわゆる外出着だけでなく、ちよつとタウン的なものも出しています。変化が少ない中にもイメージの仕事ですから、新しさが感じられるエキサイティングなものも必要ですね。素材は今回のコレクションも三分の一以上が、サンローランがバリコレで使った布地を使っているんですよ」

—良い素材を用いることに神経を使っておられますね
天野「布地はジバンシー、サンローラン、シエレルとデイオールのオートクチュール、シャネルスーツにはココシャネルの布地もよく使います。これらの布地から私が選ぶ色に個性がでるんですね。ブレードやサテン・リボン、ボタンなど付属品にも最高級品を捜します。徹底していいものを使うわけですが、それで少々価格が上がってもそれがお客様と店に対する誠意だと思っています」



“シフォン系のドレスは私が得意としているものです”と語る

瀧「その点神戸のお客さまは、素材に贅沢ですし、皆さんよく知ってらっしゃいますよ。しかもお値段が、素材や縫製からみて決して高くないんです。適正価格——ということをかなり意識しておられますね」

天野「私は布地をバリやイタリアで直接ユダヤ人から買いつけるので三分の一くらいの価格です。東京では安すぎるといわれるぐらいですが、私としては多くの方に着て頂きたいのです。一時期、舶来品であれば高価でも売れていましたが、意識革命が起こって、消費者はものの値打ちで判断されていると思いますね」

—どんな女性を対象にデザインされているのですか。
天野「年齢的な対象はないのですが、可愛くても精神的に大人になっている女性。甘い、辛いテイストが見分けられる女性にアピールする服を創りたいですね」

瀧「先生のアトリエへは、以前神戸にも住まれていた映画評論家の小森和子さんがよくみえていますね」

天野「彼女は、とてもモダンで魅力的なおばちゃんです。良い意味で女性の中の女性って感じます。東京にはオートクチュールのお客さまが多いんですよ」

—コレクションはいつも東京で催されるのですか。

天野「一昨年、ビバリーヒルズでショーをしました。ロデオ通りのブティックでも好評で、その時は色んなマスコミに取材されました。ぜひ神戸でもやりたいですね」
—正統派ファッションは却って新鮮に感じますね。

天野「日本では、芸能界でもファッションでも話題になるのは年齢層が低い人を対象とした物が多いんです。だから正統派デザイナーが育たないんですよ」

—最後に、好きな女性像をお聞かせください。

天野「より美しくなりたいと願望している女性。例えば良い服を見ると、それに合わせてシェイプアップしようとする女性って美しいと思う。自分の美しいシルエットを鏡に映したときの満足感ってお金に換えられないものでしょう。そして素直でハートのある女性が好きですね」

KOBE FASHION SPOT

★手づくり家具の江戸屋 マークを一新

オリジナル家具で知られる江戸屋では、創業10年目に当たる今年を機にマークを一新した。江戸屋は一八八二年に創業、以来100年に渡って、和風家具、欧風家具、洋風家具などいずれの分野においても品質を厳選、その素材をファッション性豊かに仕上げるまで、手づくりの伝統を守ってきた老舗の家具メーカーのひとつである。新たなマークとなる10年目を機に「フレッシュ江戸屋」と新しい企業イメージを打ち出した。家具を通して、豊かな生活様式を提案していきたいと福井社長は意欲的である。従来の



新しい江戸屋のマーク

の親しまれた「のれん」マークから新しいシヤレたロッキングチェアのマークへの変更による意欲が伺える。

□本店/兵庫区塚本通2-1-1 電話575 3120 インテリアハウス 電話576 0054

★25の会 ガッツにスタート

神戸の若手専門店の経営者、ファッション関係者25人が集まって「ガッツにやろう」と「25の会」を、昨年末にスタートさせた。メンバーの1人センター街「アルファ」の山田恭正さんは「今まで、神戸では仲よく集い研鑽する会が多いのですが、もう一歩つ込んで、お互いのケツの毛までムシ合っ



ガンバリマース

と商売の上でも利用し、伸ばし合おうやないかいあっているんです」と語る。第2回は、春に有馬で一泊してお互いにかんさくガクやりたいさうだ。ちなみに会員には、アレック

雄さんにも参加している。

★ロフトっぽい雰囲気

カジュールにアートと西へ入ったところに、T.A.ロードをちよと楽しもう



N.Y.のソーホー風です

1月25日オープンした「ONE WEY」はなかなか興味深いモノが揃っている。輸入文房具はボストンのシャープナリーやブラウンの時計など実用的

かつデザイン性の高さをのびやかなペン、便箋など。輸入ボストンカードは約300種、ホックニーやウーホルのポスターや画集など、オーナー根正雄さんの好みて、アートをカジュアルな感覚で集めている。12坪の店内は大井が高くN.Y.のソーホーに見られるような空間を生かしたロフトっぽさをねがっているとか。モダンアートの好きな男性客が多い。

ONE WEY/中央区北長狭通3丁目11-15東亜外語学院ビル1F 電話331-3378

★市野木・大里ジョイントコレクション

「おしゃれな神戸のミセスにこんな服を着てもらいたい」という願いを込めてニットデザイナーの市野木江充子とコトツンが大好きな大里最世子が恒例のジョイントコレクションを催す。パラレル・ワールドと名付けたこのショーはアットホームな雰囲気の中、受注会も兼ねて催されるが、KFMの会員で実力派の二人が、どんな個性をみせてくれるか大いに期待したいところ。北野町の異人館セントジョージで、とき/3月29日(火)



大里最世子・市野木江充子
二人が、どんな個性をみせてくれるか大いに期待したいところ。北野町の異人館セントジョージで、とき/3月29日(火)

11 AM 3 PM

ところ/セントジョージ・ジャパン

※神戸っ子愛読者を20名ご招待します。お葉書でお申し込みください。

★ニットコレクションへ3名様ご招待

ユニークなデザイン集団、KDC(ニット・デザイナーズ・コミュニティ)は、ニットにこだわらず、大きな場に広げようと毎回趣向を凝らしているが、4月は関西で人気の高い劇団「こゝろこま」とジョイントする。"Shine & Shine"と題したフレッシュな創造の世界が楽しめます



フアイフ8F)

チケット/一般¥2,000

構成/つみづこう 演出/上海太郎
※このコレクションに神戸っ子愛読者より3名様をご招待します。ご希望の方は、左記迄葉書でお申し込み下さい。抽選によりチケットをお送りします。

神戸市中区東町113-1大神ビル7F
月刊神戸っ子ニットコレクション係

★ザ・ジバンシイ・ショー

'83春・夏物特別オートクチュールコレクションが催され、ジバンシイ、オドリヘウバ、バーン等が来日します。30周年の業績を記念した力作揃いの迫力あるショーです。



ジバンシイ
17日(日)
ところ/大阪フェスティバルホール
チケット/

とき/4月16土
A ¥7,000 B ¥5,000 C ¥3,000 S ¥1,000

■ジバンシイ・ヌーベルフィッシュコレクション

とき/3月5日(土) 11 AM、1:30 PM、3:30 PM

ところ/神戸大丸ビル外商サロン

■ジバンシイオートクチュールコレクション

とき/4月1日(金) 11:30 AM、2 PM、4 PM 於大阪フェスティバルホール

80th ANNIVERSARY
時をゆるやかに美しく

ときめいて、春の祝祭日

●
プリマヴェーラの花々、
香ぐわしく、あふれ、
睫毛の上で、光はやさしく微動する。

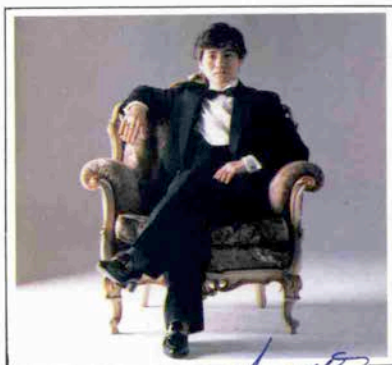


serizawa

■本店 神戸市中央区三宮町3-1-8 TEL.078-331-1695
■さんプラザ店 ■センター街店 ■さんちか店 ■メンズセリザワ
KOBE・OSAKA・TOKYO・KYOTO・HIMEJI

サン・ミヨシヤがKOBEEのおしゃれな女たちに贈ります

天野武文の
甘美な世界
'83年春夏



DU TOUT PREMIER CHOIX DU MONDE

San Miyoshiya

舶来雑貨

サンミヨシヤ

〒650 神戸市中央区三宮町3丁目1番3号

TEL. 078・332・5361



スリーピース (ブラウス/シルクオーガンジー、
スカート/綿50%・麻50%) ¥1,280,000
ワンピース (シルクオーガンジー)
¥118,000



スーツ(シルク100%)¥158,000



ワンピース(綿50%・麻50%)¥63,000



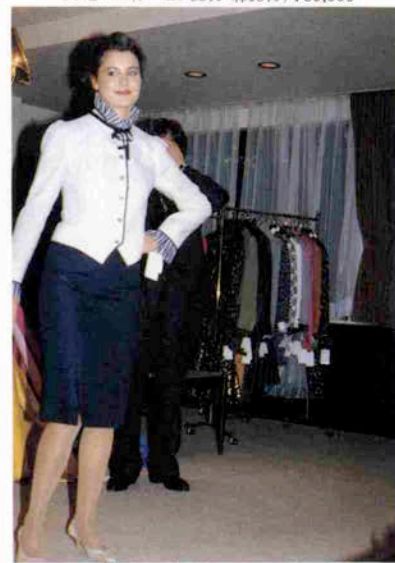
ワンピース(レーヨン85%・麻15%)¥59,000



ワンピース(綿100%)¥78,000



スリーピース(綿50%・麻50%)¥128,000



スーツ(上/麻100%・下/レーヨン100%)¥98,000

●KOBE EXCELLENT SHOP 《Sanohe》

ハイクオリティな舶来品ブティック



ヌーベルサノヘ



昭和6年に創業された舶来雑貨の老舗で、現在、本店、ヌーベルサノヘ、トアロードサノヘの3店がある。早くからハイクオリティな舶来ものを扱っており、日本でも有数のブティックとして神戸のハイカラ文化を育んできた。

最近「マニ」「クリツツイア」「バジール」「パラ」最新は「マニ」「クリツツイア」「バジール」「パラ」を育んできた。

本店、トアロードサノヘでは若い人向けの新ブランドも近々お目見えする。

本店／☎331-4707

ヌーベルサノヘ／☎321-1700

トアロードサノヘ／

☎321-1700

ハイカラ神戸の
伝統が育んだ
格調ある専門店

●このシリーズはファッション都市KOBEへの
私たちの願いをこめて……

★婦人帽子

maxim
マキシム

神戸市中央区北長狭通2丁目6-13 ☎331-6711

★舶来品ブティック

Sanohe

神戸市中央区元町通2丁目5-7 ☎331-4707

★欧風家具・設計・創作

永田良介商店

神戸市中央区三宮町3丁目1-4 ☎391-3737～9

★本格派の人々に愛される

ヨシオカ

神戸市中央区三宮町3丁目1-9 ☎331-5190

★オートクチュール

アスターニュートン

神戸市中央区北長狭通3丁目12-14 ☎331-1818

★世界のオシャレをお届けする

ウネ

KOBE LINE
神戸市中央区元町通1丁目4-13 ☎331-3112

★よろず御衣衣縫上處

神戸シヤリ

神戸市中央区三宮町3丁目1-6 ☎331-2168



MANI



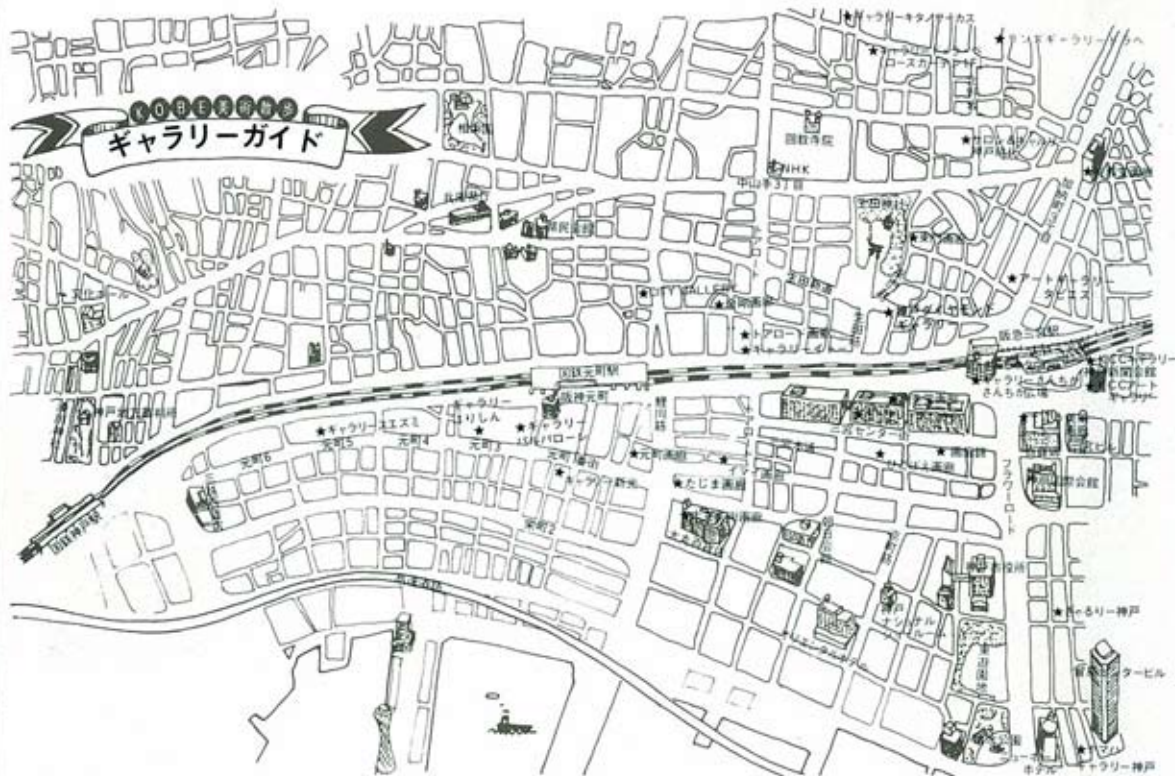
Krizia



'83 SPRING & SUMMER COLLECTION

Sanohe

ヌーベルサノヘ / 元町1番街 TEL.078(321)1710



畫廊 藥

画廊 錦

神戸市中央区三宮町1丁目
5-30 三宮センター街
☎ (078) 331-1721・3水曜休

神戸市中央区三宮町1丁目
8番1 さんプラザ3F
☎ (078) 331-1639 月曜休

常設展

神戸市中央区中山手通1丁目
23-10 モンシャトーコトブキ
ビル1F ☎(078)242-3567
喫茶(昼)・土日休・スナック(夜)日曜休

常設展

神戸市中央区三宮町1丁目6-18
ジョイント3F
☎ (078) 321-2046